

魚種（海域）：ヤナギダコ（北海道周辺海域）

担当：中央水産試験場（星野 昇）

要約

評価年度：2015年度（2015年1月～2015年12月）

2015年度の漁獲量：6,864トン（前年比1.27）

資源量の指標	資源水準	資源動向
漁獲量	中水準	横ばい

全道の漁獲量は6,864トンと前年より増加した。特に襟裳以東太平洋海域での漁獲増が全道漁獲量を押し上げた。本資源に関しては生態的特徴や海域ごとの資源動向に関してほとんど知見がなく詳細な検討はできないが、漁獲量は主産地である太平洋海域の動向に応じて緩やかに増減しながら推移しており、現在までいずれの海域においても一方向的な減少傾向は認められない。適度な漁獲強度のもとで資源の持続的な利用が図られていると考えられる

1. 資源の分布・生態的特徴**(1) 分布・回遊**

漁獲水深は100～400mであるが、稚ダコは水深30m前後に生息する。季節的な深淺移動をするが、浮遊幼生期がなく大きな回遊はしない。

(2) 年齢・成長

年齢・成長はよくわかっていないが、体重7kgくらいまで成長する。

(3) 成熟年齢・成熟体長

体重3kgから成熟する個体がみられはじめる。繁殖活動はオス・メスとも一生に1度である。

(4) 産卵期・産卵場

- ・産卵期：日本海では5～6月で、道東では冬季である。
- ・産卵場：日本海では水深120～180m、道東では水深70m前後の岩礁域に形成される。

(5) その他

浮遊幼生期がなく、ふ化後すぐに着底すると考えられている。

2. 漁業の概要**(1) 操業実勢**

ヤナギダコは、たこ空釣り縄、たこ箱、かご網類、沖合底びき網、刺し網などで漁獲される。操業実勢データの詳細は不明であるが、太平洋沿岸のとくに日高～釧路管内が漁業の中心となっている（図1）。日本海海域（宗谷～檜山振興局）では知事許可のえびかご漁業が55%（過去5カ年：2010～2014年の平均値）と最も多く、沖合底びき網漁業が19%（同

上)とこれに次いでいる。襟裳以西(渡島～日高振興局)および襟裳以東海域(十勝～根室振興局)では、たこ空釣り縄やたこかごなどのたこ漁業がそれぞれ85%(同上)および88%(同上)と大部分を占め、オホーツク海海域(オホーツク振興局)では、沖合底びき網漁業が83%を占めている。

(2)資源管理に関する取り組み

許可の制限条件、漁業権行使規則などで操業期間、漁具の制限等を定めている。

3. 漁獲量および漁獲努力量の推移

(1)漁獲量

全道の漁獲量の推移をみると、1986～1991年には8～9千トン台で推移していたが、1992～1996年には4～5千トン台にまで減少した。1997年以降漁獲量はやや増加して2004年までは7千トン前後で推移していたが、2005年には急増して13千トンとなり、翌年も12千トンと高い水準を維持した。しかし、2007年には漁獲量が大幅に減少して8.7千トンとなり、2008年以降は5～7千トン前後で推移した。2015年は2014年(5,402トン)から増加して6,864トンであった(図2)。

海域別に見ると、日本海海域では1980年代後半から1990年代はじめにかけて1千トン程度の漁獲があったが、それ以降は緩やかに減少しており、2015年は前年(638トン)より増加して805トンであった。漁獲割合の最も高い襟裳以西海域では1998年の5.5千トンを除くと、2.5千トン～4.6千トンの範囲で増減を繰り返している。近年では2009年の2.6千トンから2012年に4.6千トンまで徐々に増加したが以降は減少し、2015年は2,835トンと前年並みであった。襟裳以東海域では1985～1991年まで2～3千トン台、それ以降は減少して1999年まで1千トン前後の低い水準で推移した。2000年以降は増減を繰り返しており、2005年には8.7千トン、翌2006年も7千トンの非常に高い漁獲を記録した。漁獲の増加は根室振興局管内の歯舞、落石地区で特に著しかった。その後、2007年に急減して3千トン台と増加前の水準に戻り2011年以降は1千トン台で推移したが、2015年は3,157トンと前年から大幅増となった。オホーツク海海域における漁獲量は少なく、1990年代に100～300トン程度の漁獲があった以降は100トン未満の低い水準で推移している。

(2)漁獲努力量

漁獲努力量の指標として、北海道知事許可漁業数(たこ漁業)の推移を見ると(図3)、根室振興局管内(空釣り・かご計)では1993年から1994年にかけて大幅に増加し、その後1998年まで徐々に減少していたが、1999年、2000年と増加した。その後は140～160隻程度で緩やかに変動している。また、日高振興局管内(たこ箱・空釣り計)、釧路振興局管内(空釣り)では、それぞれ150～170隻程度、70～80隻程度で緩やかに変動している。近年は着業隻数の大きな変動はなく、比較的安定して推移しているものと推測される。

4. 資源状態

(1) 現在までの資源動向：漁獲量の推移

タコ類の種別漁獲統計が集計されている 1985 年以降の全道のヤナギダコ漁獲量で資源状態を判断すると（表 1，図 1）。1994 年および 1996 年の 4 千トン台の低い水準，2005，2006 年の 1 万トンを超す高水準を除くと 5～8 千トンの中水準の範囲内で変動していると考えられる。漁獲割合の高い襟裳以西海域は前述のように一定の範囲で増減を繰り返しており，長期的な減少や増加の傾向は認められない。一方，襟裳以東海域は襟裳以西海域と比較して変動幅が大きく，全道の低水準期，高水準期はいずれもこの海域の減少と増加によっている。2011 年以降は 1990 年代の低水準期と同程度となっていたが 2015 年は増加に転じた。日本海海域は 1990 年代中盤以降，徐々に漁獲量が減少し，2008 年以降は 5 百トン前後で変動している。一方，この海域における主たる漁業である沖底およびえびかご漁業の着業隻数も 1990 年代後半および 2000 年代にかけて減少しており，このことも漁獲量減少の一因と推測される。従って，日本海海域の資源は 1990 年代中盤に減少したが，その後は一定の範囲内で増減していると考えられる。オホーツク海海域の資源は，1990 年代に高い水準にあったが，これ以降は減少して低い水準の中で増減を繰り返していると考えられる。

(2) 2015 年度の資源水準：中水準

資源水準は漁獲量で判断した。資源水準指数は各年の漁獲量を 1990～2009 年の 20 年分の漁獲量平均を 100 とした相対値で表す。資源水準指数 60～140 を中水準とし，それ以上を高水準，それ未満を低水準とした。2015 年の資源水準指数は 93.0 となり，**中水準**と判断された。

(3) 今後の資源動向：横ばい

前述のようにヤナギダコの漁獲量は一定の範囲内で増減を繰り返している。変動幅の大きな襟裳以東海域は過去 3 カ年，低い水準で大きな変動なく推移していることから，次年度も北海道全体としては大きく漁獲量が増減する可能性は低く，中水準で推移すると考えられる。これらのことから，資源動向は横ばいと判断した。

5. 資源の利用状況

漁獲量は 1994 年を除くと中または高水準で推移しており，各海域とも一定の範囲内で増減を繰り返しており，長期的な減少傾向は認められない。これらのことから，いずれの海域でも現在のところ漁獲強度は概ね適切な水準にあり，資源を持続的に利用することができていると考えられる。漁獲量の変動は資源の加入動向を反映したものと考えられ，引き続き海域ごとの漁獲量と漁獲努力量の状況を把握していくことが必要である。

評価方法とデータ

(1) 資源評価に用いた漁獲統計

漁獲量の集計には 1985～2014 年は漁業生産高報告，2015 年は水試集計速報値を用いた。集計にあたり北海道海周辺海域を 4 つの海域に区分した。それぞれの海域名と集計範囲を下記に示す。

- ・ 日本海海域：集計範囲は宗谷，留萌，石狩，後志，檜山振興局
- ・ 襟裳以西海域：集計範囲は渡島，胆振，日高振興局
- ・ 襟裳以東海域：集計範囲は：十勝，釧路，根室振興局
- ・ オホーツク海海域：集計範囲はオホーツク振興局

漁獲努力量の指標として，過去のヤナギダコ漁獲量の上位 3 振興局（日高，釧路，根室）における北海道知事許可漁業数（たこ漁業）を，各支庁（平成 22 年度からは振興局）の水産から集計した。

文 献

なし。

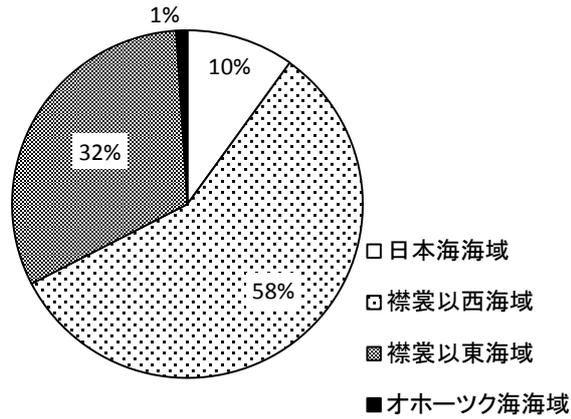


図1 海域別のヤナギダコの漁獲割合（過去5カ年：2011～2015年の平均値%）

海域の範囲は日本海：宗谷～檜山振興局，襟裳以西：渡島～日高振興局，
襟裳以東：十勝～根室振興局，オホーツク海：オホーツク振興局

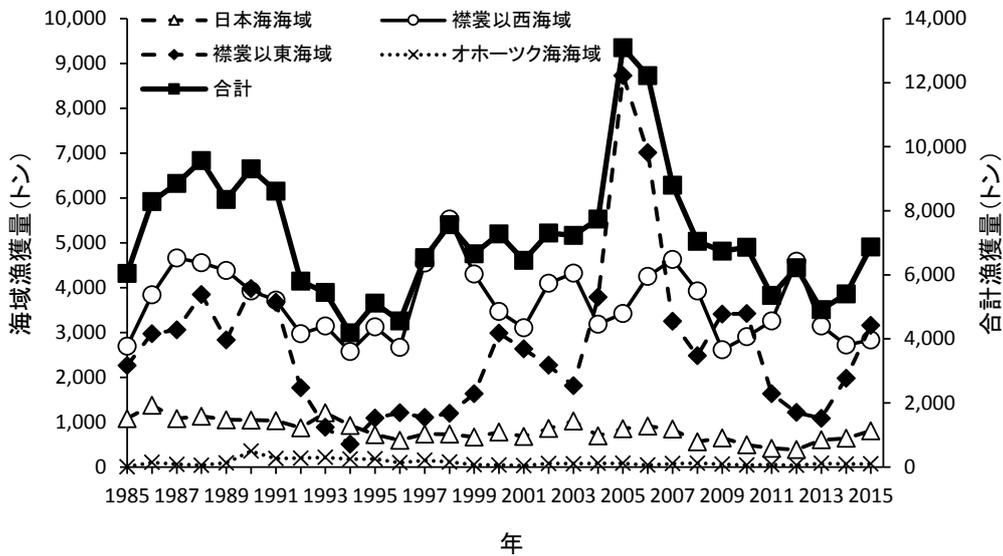


図2 ヤナギダコ海域別漁獲量の経年変化

資料：1985～2014年は漁業生産高報告，2015年は水試集計速報値

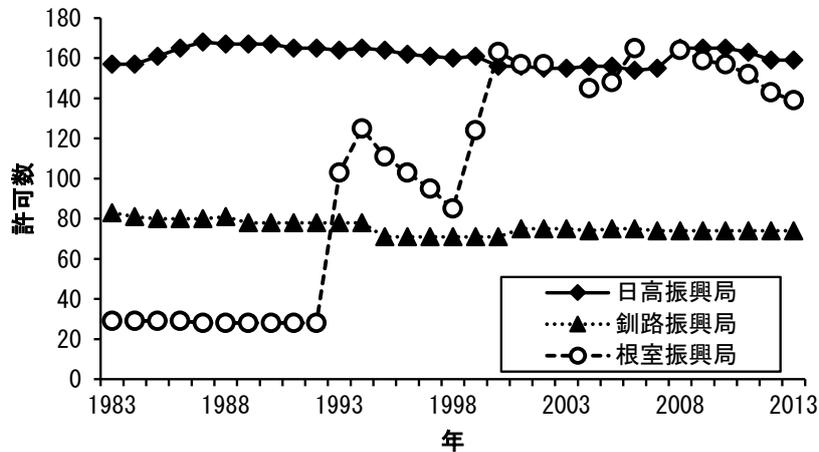
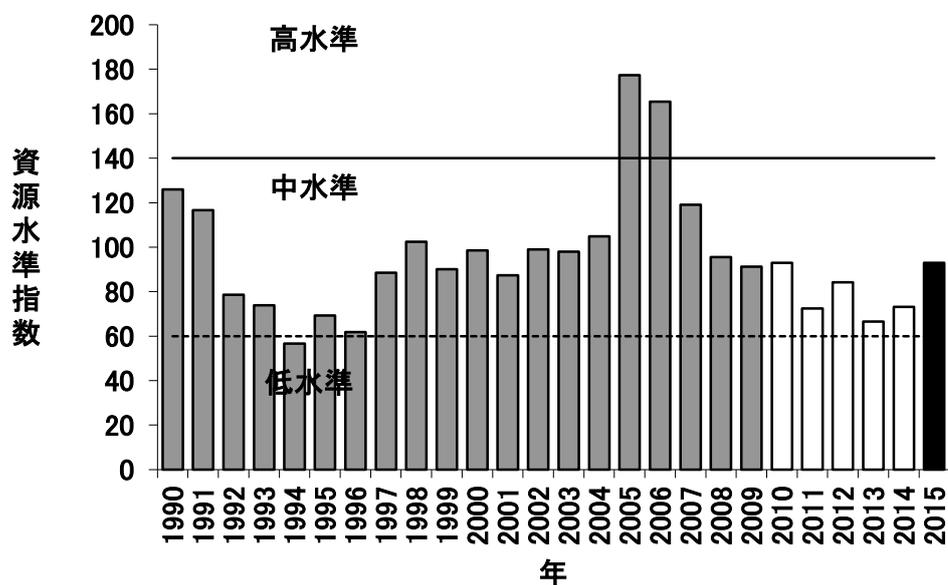


図3 振興局別たこ漁業許可隻数（知事許可たこ漁業） 資料：支庁の水産

表1 ヤナギダコの海域別・振興局別漁獲量(トン)

年/海域 振興局	日本海海域					襟裳以西海域				襟裳以東海域				オホーツク海域	合計
	合計	宗谷	留萌	後志	檜山	合計	渡島	胆振	日高	合計	十勝	釧路	根室	オホーツク	
1985	1,079	329	305	431	15	2,693	221	384	2,088	2,261	623	992	647	4	6,038
1986	1,375	554	362	428	32	3,839	366	571	2,901	2,973	920	1,721	332	100	8,288
1987	1,078	232	339	488	19	4,659	525	411	3,723	3,057	962	1,520	574	58	8,852
1988	1,131	186	263	674	7	4,551	472	592	3,487	3,847	1,077	1,964	806	37	9,566
1989	1,052	82	358	606	6	4,383	746	973	2,664	2,829	565	1,228	1,036	91	8,355
1990	1,047	104	313	616	14	3,923	602	733	2,588	3,979	785	1,339	1,855	354	9,303
1991	1,033	61	421	528	23	3,718	717	607	2,394	3,676	705	1,170	1,802	187	8,614
1992	874	20	349	490	16	2,969	824	342	1,802	1,765	580	619	565	197	5,805
1993	1,207	62	444	680	21	3,146	651	366	2,130	883	416	270	197	215	5,451
1994	927	50	294	571	12	2,573	394	242	1,936	509	283	81	145	175	4,183
1995	721	15	283	407	15	3,122	498	441	2,182	1,091	260	351	480	181	5,114
1996	595	23	242	307	23	2,664	522	363	1,779	1,208	269	369	570	95	4,561
1997	733	18	293	399	22	4,549	950	824	2,775	1,104	399	365	340	147	6,533
1998	731	40	239	427	25	5,526	734	1,074	3,719	1,194	421	489	284	112	7,563
1999	669	14	204	420	32	4,305	497	716	3,093	1,631	456	486	689	49	6,654
2000	778	11	205	543	19	3,470	494	512	2,465	2,981	574	1,004	1,404	47	7,276
2001	681	20	178	466	17	3,106	424	392	2,290	2,632	403	1,125	1,104	29	6,448
2002	856	51	259	527	19	4,100	538	698	2,864	2,269	584	801	884	79	7,303
2003	1,027	40	268	703	16	4,322	453	419	3,451	1,809	749	652	408	73	7,231
2004	693	31	235	415	13	3,180	574	446	2,160	3,783	780	1,081	1,922	83	7,739
2005	854	29	234	580	10	3,423	598	445	2,380	8,730	905	2,460	5,366	83	13,090
2006	911	31	238	637	6	4,248	781	531	2,937	7,012	693	2,381	3,939	43	12,215
2007	842	21	242	571	8	4,629	805	689	3,135	3,249	516	846	1,886	74	8,794
2008	562	48	159	349	6	3,922	702	458	2,763	2,479	375	486	1,618	84	7,048
2009	647	34	190	418	4	2,616	695	495	1,426	3,411	202	665	2,544	62	6,736
2010	493	32	147	311	2	2,906	463	564	1,878	3,420	341	1,086	1,992	42	6,860
2011	416	38	132	245	2	3,253	537	511	2,205	1,632	331	484	818	51	5,352
2012	386	34	132	216	3	4,585	642	680	3,264	1,214	357	370	486	35	6,220
2013	603	35	239	326	3	3,143	600	407	2,136	1,084	203	332	549	81	4,912
2014	638	22	229	387	0	2,720	470	432	1,818	1,980	214	815	950	64	5,402
2015	805	20	382	402	2	2,835	536	627	1,672	3,157	235	1,486	1,436	67	6,864

資料：1985～2014年は漁業生産高報告，2015年は水試集計速報値

図4 北海道周辺海域のヤナギダコの資源水準
(資源状態を示す指標：漁獲量)